

多摩地域の観光施策 についての提言

多摩地区の魅力づくりを考える

流行仕掛け研究所代表 跡見学園女子大学講師 島田 始

①特徴ある街づくり ～1市町村 1テーマづくり促進

- ・ 旅行者に人気の23区のエリアは全て特徴がある
秋葉原、池袋、巣鴨、日暮里、新大久保、徒蔵エリア、上野、浅草、神保町、渋谷、
原宿、赤羽、北千住、立石、押上・・・
- ・ 「住みたい街ランキング2017の総合ランキング関東編」でベスト50に多摩地域は
1位・吉祥寺 20位・立川 28位・三鷹 39位・町田&調布
「住みたい街ランキング2017の行政市区ランキング関東編」でベスト50に多摩地域は
14位・武蔵野市 26位・立川市 34位・三鷹市 39位・府中市 51位・八王子市
「穴場だと思ふ街トップ10関東編」に多摩地域はなし ちなみにトップ10は、
北千住、赤羽、池袋、大塚、駒込、巣鴨、田端、川崎(神奈川)、綾瀬、和光市(埼玉)
- ・ 現状は・・・観光客誘致に至っていないエリア・施設が多い 単に施設があるからではだめ
福生＝アメリカ村 三鷹＝ジブリ美術館 調布＝映画 府中＝競馬場、大国魂神社
多摩ニュータウン＝サンリオピューロランド 奥多摩＝ダム 八王子＝高尾山 稲城＝梨
その他・・・多摩動物公園、アウトレット、日本酒酒蔵、公園(井の頭、昭和記念、小金井etc.)、深大寺
- ・ 観光の基本は「住みたい街づくり、街おこし」と「そのための人づくり」
企画者(コンテンツをつくる人)、プロデューサー(根回しをする人)、情報発信者(知らせる人)の育成
- ・ イベント、祭り、パワースポット、聖地巡礼など時代感覚、ムーブメント、情報発信、未来があるか
尖った観光商品づくり 魅力創造・魅力発掘・賞味期限切れの観光商品を再構築

②都市型(工場)農業と地産地消 ～食料自給率 1 %と日本の農業問題解消モデル

- ・ 外国人旅行者の訪日目的の1位、日本での満足度の1位は「日本の食」 多摩地域に料理の目玉商品ない
- ・ 日本人の国内旅行の目的の1位も「食事」・・・「朝食」「お弁当」「夕食」「スイーツ」「地産地消レストラン」「buffet」
- ・ 今後、地球規模で人口爆発・天候不順、後継者不足・高齢化・・・食糧不足(食料争奪)問題、世界的争奪戦
- * 農業も観光商品(グリーンツーリズム)だが、3K仕事からの脱却 工場跡地、ニュータウン、耕作放棄地・荒廃農地利用
- * 世界の大都市周辺には地産地消レストランが多い・・・食都・東京は地産地消のイメージない
- ・ 多摩地区における都市農業・ニューグリーンツーリズムの新しい形＝田畑を耕す時代から「農業のIT時代」へ
 1. 工場野菜、工場米づくりの促進・・・東京理科大学など各大学で高品質化、低価格化実現
 2. 好適環境水による海洋魚介類の陸上での養殖可能に・・・岡山理科大学で実現 海に養殖場のスペースない
 3. 地産地消レストランの育成・振興 工場併設型レストラン、隣接型レストラン、都心までも20～30km圏
 4. 工場農業、内陸部海洋魚介類の養殖の世界のモデル地区に 日本人・外国人見学ツアー
 5. 従来の農業との共存、江戸野菜の推進、多摩版ミシュラン本格的な格付けガイド発行、動画ブロガーの育成

③「EV車＋デザイナー」の乗り合いバス ～観光列車からEVバスの時代へ

- ・ 高額料金の観光列車時代は終わる。観光テーマバス、電気自動車(EV)の時代到来
- ・ ボルボ(スウェーデン)2019年ガソリン車製造中止、2040年各国で販売停止に
- ・ 豊島区が池袋駅周辺の繁華街を回る「EV車＋水戸岡鋭治デザイン」バス運行
副都心移動システムとして、平成30年度に導入予定
- ・ 観光の二次交通不足解消と観光商品づくり……多摩地区の主要駅と観光地を結ぶ
- ・ 有名デザイナー、地元の人気キャラクター、人気観光商品、文学館とコラボする
水戸岡鋭治氏、地元ゆるキャラ、三鷹・武蔵野・調布を結ぶネコバスなどジブリバス、
多摩ニュータウンと周辺を結ぶハロー・キティバス、調布周辺のゲゲゲの鬼太郎バス など
- ・ クラウド・ファンディングの活用
- ・ 多摩地区をEV車、HV(ハイブリッド)車モデル地区に → 全レンタカー、自治体公用車をエコカーに
- ・ 多摩地域をエコツーリズムのモデル地区に

④新スポーツツーリズムの拠点づくり ～今世紀世界3大産業の1つに成長

- ・ 従来のスポーツから新スポーツの時代に、スポーツツーリズムも変わる……多摩地域がその旗手になる
- ・ 従来のスポーツは施設が後世の負の遺産、スポーツ人口と予備群の減少、練習場・遊び場不足で衰退
- ・ 5大新スポーツの時代到来……IT、AIなど最先端技術と連動、スポンサーに大企業・政府・軍需産業・IT企業・基幹産業
 1. 新スポーツ(東京五輪の新種目も)……場所取らない、練習しやすい、大人数のチームではない
 2. eスポーツ……21世紀はeスポーツの時代、ゲーム人口の増加、多彩なスポンサー、2016から五輪スタート
 3. ロボットスポーツ……AI時代の新スポーツ、ロボスポーツという……人間のするスポーツのほとんどが種目に
 4. 人間 vs AIスポーツ……eスポーツと並ぶ21世紀の花形スポーツ
 5. 健康・美容・痩身スポーツ……医療費、介護費財政を圧迫、高齢者向けも主流、健康長寿、歩きたくなる街づくり
- ・ 新スポーツ競技場は従来のスポーツ施設以外に公園、ホテル、大学など教育施設、文化施設、イベント広場など
- ・ 2044年か2048年「多摩オリンピック」開催 スポーツ種目は5大新スポーツ中心＋従来の五輪種目の一部
3回目の東京可能性大
- ・ IT企業、大手通信会社と提携し、スマートスタジアム化の推進……世界のモデル地区に(多摩地区のスタジアム全てに)
- ・ スポーツ医療、リハビリテーション、マッサージ、勝つ栄養学、食事療法、スポーツファッション、温泉療法などと連動

⑤日本初の「本格的広域ラテタウンとアウトドア・ゲートタウン」構想

- ・ 高尾山人気の拡散、多摩西部の里山エリアの活性化
- ・ 日帰り、宿泊リゾート型、山ガール、森ガール、鳥ガール、MICEのエクスカージョン、ドライブ旅行などに対応
- ・ おしゃれなカフェでカフェラテを飲みながら自然を満喫。トレッキング、ラフティング、森林浴、溪流釣り、キャンプ、サイクリング、自然観察などアウトドア・スポーツのゲートタウンにもなる。2面性を併せもった街づくり
- ・ 代表例は米国コロラド州ボルダー。日本では筑後吉井、軽井沢がラテタウンだが、アウトドア・スポーツのゲートタウンにはなっていない(軽井沢はゲートタウン構想あり)
- ・ おしゃれなカフェ、駐車場、シャワー・温泉施設、アウトドア・スポーツの施設や環境整備・誘致
……五日市、青梅、奥多摩、あきる野、高尾山・八王子、多摩丘陵など従来の観光・宿泊施設を
活用できる 東京都広域ラテタウン協議会設立
- ・ フリーWi-Fi、無料駐車場、快適なトイレの設置、おしゃれで美味しいカフェ&レストランの誘致推進、二次交通、各アウトドア・スポーツのインストラクター、野鳥・植物・山菜・星座などのガイドの育成、手配

⑥多摩地区の観光振興その他の施策

1. 100万人規模の「多摩3大祭り」の構築・・・どんな祭りにも1年目があった。渋谷ハロウィーン1500億円効果
 - ・ 第2の巣鴨づくり・・・2025年問題、多摩地区は超高齢化時代、巣鴨まで行けない人たち 西八王子ぽっくり寺
 - ・ IT・ハイテクを取り入れた祭り・・・デジタル祭り(ハイパーねぶた) リアル+デジタル+Pマッピング花火大会
2. 神奈川県西部、埼玉県奥武蔵・秩父との広域観光の推進・歴史街道の整備 八高線・横浜線・相模線沿線観光
 - ・ 北条街道 小田原～八王子～寄居～行田・・・古城・城址めぐり・花めぐり、共通の祭り&イベント、大河ドラマ化
 - ・ 鎌倉街道 鎌倉～町田～多摩～府中～国分寺～所沢～川越～足利・新田・・・サイクリング道路
3. Uber特区・・・世界70カ国450都市以上で展開している自動車の配車ビジネス NYなど米国の大都市では一般化
 - ・ ソフトバンク100億円融資 政府「前向き姿勢」国家戦略特別区域 外国人旅行者に人気のシステム
4. ノマドオフィス・アウトドアオフィス、パブリックスペース促進 → フリーWi-Fi、充電システム完備、タブレット端末配備
 - ・ ノマド族、アウトドア(野外)オフィス族、在宅勤務族、育児取得者の増加、「フリーアドレス」オフィス化
 - ・ 人口減少(過疎化)を防ぐ・・・多摩地区から都心のオフィスへ1時間、労働環境の変化、共稼ぎと育児で23区移住
 - ・ 活気のない街に観光客は来ない・・・駅周辺にノマド族オフィスの設置とフリーWi-Fiは旅行者にも親切